

地域防災力向上のための取り組み事例—仙台市片平地区の例—

国土防災技術株式会社 ○中島さくら，講武学，中村清美，大沼乃里子
 片平地区連合町内会 今野均
 内閣府 山口徳彦

1. はじめに

近年，東日本大震災や九州北部豪雨といった大規模災害の発生に伴い，「自助」「共助」の強化と「公助」の連携が強く叫ばれている。災害から命を守るためには，平時から住民が居住地の地域特性やリスクを把握し，近隣住民との信頼関係を構築しておくことが必要であり，このような住民の自発的な活動を促すため，内閣府は災害対策基本法の改正を行い，平成 26 年 4 月より「地区防災計画制度」が施行されている。

この制度の普及のため，内閣府では，平成 26 年度から平成 28 年度に，計 44 箇所モデル地区を選定し，計画の策定支援を行った。本発表では，平成 28 年度モデル地区である「仙台市片平地区」を例に，地域の防災力向上のための取り組みを紹介する。

2. 仙台市片平地区での取り組み

2.1 地区の概要

片平地区は，仙台市の中心市街地に接しており，仙台の城下町として発展した由緒ある地域である。

当地区は 8 つの町内会からなり，長年当地区に住み続けている人々のもとより，近年は，マンションの建設に伴う子育て世代の増加や，東日本大震災後に建設された災害復興公営住宅への移住などにより，人口増加が著しい地区となっている。加えて，地区内には東北大学をはじめとする教育機関があり，留学生を含む学生も多く居住する。

ここでの防災活動の特徴は，「防災はまちづくりの一部」という思いのもと，防災活動をまちづくり活動の中に位置付けている点である。まちづくり活動は各町内会が主体であるが，地区住民ならびに，観光，教育，福祉など，地区内にある産官学民の組織によって構成された「片平地区まちづくり会」が，各種団体の調整や資金調達，実行管理など統括的・事務局的な役割を果たすことで，地区に内在する様々な地域課題の解決にあたっている。

2.2 地区の災害脆弱性

広瀬川が蛇行する片平地区では，ゲリラ豪雨や暴風雨による洪水の危険性が高く，仙台市が公表している洪水ハザードマップによると，2～5メートルの浸水想定区域も有している。また，地区の一部は急傾斜地崩壊危険区域に指定されるなど，がけ崩れの危険性も高い地区である。

2.3 地区の課題

片平地区まちづくり会では，平成 25 年に「片平地区まちづくり計画（第 1 期）」を整備しており，毎年，計画の棚卸を行っている。平成 28 年度時点で，地区の課題として挙げられた項目を以下に示す。

- ・ 地区内に在住する学生（留学生含む），マンション住人などの，地域活動への参加促進
- ・ 活動を継続するための，資金・人材の確保
- ・ 防災無線やラジオ，地区のホームページを媒体とした，防災情報伝達の仕組み構築
- ・ 次世代を担う若手の育成

モデル事業では，「次世代を担う若手の育成」の一環として地区防災計画の取り組みが行われた。

2.4 課題解決への取り組み

地区では，「次世代を担う人材の育成」に向けた活動として，「防災×宝探し」（地区の歴史や災害脆弱性について学ぶイベント）を企画・実施した。宝探しゲームは地域振興やまちづくりの活性化の観点から全国各地で開催され，防災と関連するものもあったが，一般参加者を増やすため“防災”や“内閣府主催”の文字をあえて伏せることで，ゲーム中に危険箇所や避難所の場所等を無意識に学び，防災の関心向上に結びつけようとする試みは全国初であった。

本企画の対象は小学 5，6 年生の児童と保護者とし，防災情報が記載された「宝探しマップ」を手に，地域の自然や歴史・文化を題材とした謎を解くことで，各種避難場所に隠された宝箱を探しゴールを目指すという内容であった。



図 2.1 宝探しマップ



図 2.2 イベント当日の様子

地区では、年度当初に「次世代のリーダーを育てる」を題材としたシンポジウムの開催を予定していたが、「地区活動への若手参画促進」という方向性が一致していることから、シンポジウムを「防災×宝探し」イベントに変更し、防寒、交通安全面などの観点から様々な意見交換を交わしたうえで、片平地区内の2つの町内会区域を対象にトライアル版という位置づけで本イベントを実施することとした。

参加者に対し過去の災害や歴史、避難所の種類や目的について説明を行うガイド役や、当日の交通整備や昼食の準備、会場設営などは各町内から全面的な協力を得て、また、企画の告知は片平丁小学校を通じて行うことができた。

本イベントの目的は次世代を担う人材の育成であり、児童や保護者といった若手の地区活動参加促進を期待したものであったが、活動後のアンケートでは「また参加したい」「普段通り過ぎてしまう町を楽しく見直すことが出来た」との回答が得られたことから、本イベントにより、継続的な地区活動への参加意欲が高められたと評価できる。

2.5 発展と展望

モデル事業内で実施した「防災×宝探し」イベントは、翌年度より第2、3回と継続して実施されている。イベントは、片平地区まちづくり会が主体と

なり、中学生や大学生も取り込み、企画・運営するなどといった展開がみられている。

「片平地区まちづくり計画」は、平成30年度で第1期の計画が終了し、平成31年度から始めた第2期のまちづくり計画においても、各種助成金を獲得しつつ、多様な組織と連携をとりながら、解決に向け実践活動に繋がっているところである。

3. まとめ

3.1 他地区への展開

片平地区の取り組みは、防災を含む多様なまちづくり活動を実践しながら、次世代の地域を担う人材育成にも取り組む先進的な事例であると評価できる。

本企画を2カ月半という短期間で実施できた背景には、まちづくり活動に係る多様な組織が“顔の見える関係”であったことが大きく関係している。例えば、ガイド役を10名確保することが可能であったのは、これまでのまちづくり活動の蓄積があったことであり、他地区で同様の取り組みを実施しようと発起しても一朝一夕には難しい場合も想定される。ガイド役やイベントの支援者は、“防災活動だけ”に参加しているのではなく、日頃から様々なまちづくり活動の中で“防災にも”力を発揮しており、こうしたまちづくり活動があつてこそ「地域防災力」が育まれていくものと考えられる。

3.2 砂防と地区防災計画

地区防災計画を作成する過程では、片平地区のような“顔の見える関係”の構築に加え、災害リスクに関する情報提供や意識啓発、必要な助言を「アドバイザー（専門家）」から得られる体制づくりも重要である。砂防に携わる者としては、地区防災計画の策定において重要となる「地区の災害脆弱性を理解する」段階において、地区で想定される土砂災害の想定シナリオの作成や、避難行動計画の策定ワークショップでの貢献だけでなく、まちづくり（地域づくり）活動も含め継続的な関わりをもつことで、地域防災力の向上に貢献できるのではないかと考える。

【参考文献】

- ・ 「地区防災計画ガイドライン」、平成26年3月
- ・ 「片平地区防災活動報告書」、平成29年3月